

V308a X線分光撮像衛星 XRISM の科学運用の現状（4）

小川翔司, 金丸善朗, 福島光太郎 (JAXA), 寺田幸功 (埼玉大, JAXA), 高橋弘充, 水野恒史, 深沢泰司 (広島大), 信川正順 (奈良教育大), 宇野伸一郎 (日本福祉大), 中澤知洋, 大宮悠希, 大熊佳吾 (名古屋大), 内山秀樹 (静岡大), 久保田あや (芝浦工業大), 田代信, 勝田哲, 本上侑吾 (埼玉大), 寺島雄一, 志達めぐみ, 善本真梨那, 高木利紘 (愛媛大), 山内茂雄, 太田直美 (奈良女子大), 山田智史 (東北大), 坪井陽子, 米山友景 (中央大), 内田悠介 (東京理科大), 江口智士 (熊本学園大), 谷本敦 (鹿児島大), 飯塚亮, 海老沢研, 渡辺伸 (JAXA), Matt Holland, Tahir Yaqoob, Chris Baluta (NASA), Michael Loewenstein (NASA, UMD), Eric Miller (MIT)

2023年9月7日に打ち上げられたX線分光撮像衛星(XRISM)の運用は、2024年9月より世界中の研究者からの観測提案に基づいて天体観測を行うGeneral Observer(GO)期が開始している。2025年5月に締め切られた第二期の公募には103件の提案があり、観測時間ベースで約6倍という高い競争率となった。現在行われている第一期公募観測は2025年8月末に終了し、ゲートバルブの開放運用を経て、同年11月から第二期公募観測が開始される予定である。我々科学運用チームはXRISMの科学成果を最大限に引き出すために、ToO観測への対応を含む観測計画、観測データの高次処理およびアーカイブ処理とその検証、日々の即時解析データによる検出器の健全性確認および観測PIへの観測データプロットの送付、X線突発天体の検出と解析、研究者向けウェブサイトの保守・管理、ヘルプデスクの運用などの活動を行っている。これらは衛星運用および検出器開発チーム、NASA/XRISM SDC、GOFやESA/ESACの地上ソフトウェアチームやユーザーサポートメンバーと連携した活動である。本講演ではXRISMの科学運用についてこれまでのステータスをまとめ今後のプランを報告する。